

伝統技法活用自然家具開発事業

－（第2報）－

Tradition technique use nature furniture development

- (The second report) -

伊藤 健、館山 大、小松 勇、工藤 洋司

現在、シックハウス症候群で苦しんでいる人は少なくない。その対応策のひとつとして、建材、内装材に使用されているホルムアルデヒドの放散量を規制する基準には現在JAS基準がある。しかし、インテリアを構成する要素である家具自体にはVOC関係の規制が無い状況であり、基準をクリアした建築物であっても、その空間に輸入家具を配置したとたんに基準値がオーバーした事例があり、現在も化学系樹脂を一切使用していない家具メーカーは無い。

そこで本研究の目的として、「安心」「安全」「心地よい」ものが強く求められている現在の社会情勢を鑑み、生活環境改善の視点から接着剤等の化学系樹脂を一切使用しない安心快適木製家具の開発を行い、ホルムアルデヒド放散量ゼロの快適な生活空間と環境づくりを青森から全国に向けて発信することを目指す。

昨年度、その有効性が確認された圧密木材（スギ材）の復元する特性を活用した部材を試作し、伝統的な接合構造と組み合わせることにより、化学系接着剤を使わない自然家具として、ノックダウン式の展示台と、子ども用家具（テーブルと椅子）の試作開発を実施した。



ノックダウン式展示台



子ども用テーブルと椅子